

2019年度 特別研究期間制度 適用者

所属	資格	氏名	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
文	教授	片山 宏行	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	菊池寛の評伝作成に関する研究	『文藝もず』第20号(2020・8・30)「閻魔堂」解説にかえて『同上』“( ” )「我がフェータリズム」検証 『みずと雅輔』解説(新潮文庫)2020・5・1	-
	教授	岩田 みゆき	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	日本近世における「風説書」・「風説留」の研究	日本近世における「情報」、特に「鎖国」制下における異国船情報や、「オランダ風説書」「別段風説書」などの長崎経由で入ってくる海外情報について、その国内での広まりや、政治・社会に与えた影響について、幕府・諸藩士・在地社会のそれぞれの動向に注目しつつ史料の調査・研究を行った。 特に、商人や諸藩士が残した日記史料や風説留などの情報集を中心に分析検討を進めた。	-
	教授	Dabbs,T.W	短期 (6か月)	2019.9.1 ～ 2020.2.29	日本	青山学院大学	This special research will be devoted to a book-length project with the working Title, 'St Paul's,Shakespearean and Shakespearean drama	During this special research period I examined the history of St Paul's cathedral in London from the 1540's to identify how the cathedral space promoted the rise of Shakespearean drama. This research was advanced by the use of new digital research technology. I was also able to complete the final proof of a forthcoming article on the relationship between Shakespeare's A Midsummer Night's Dream and the working spaces of the Elizabethan Office of the Revels.	-
	教授	野邊 修一	短期 (6か月)	2019.10.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	非言語コミュニケーションと英語科教育に関する研究	研究活動の成果の一部として、次の報告を行った。 野邊修一.(2020).非言語コミュニケーションと英語科教育(8).青山学院英語教育研究センター2019年度研究活動報告書.159-162. 木村松雄・野邊修一・辻りこ.(2020).TOEFL-ITPとSILL、CAN-DO Listsを用いた英語学力と学習ストラテジー及び学習意識から見た一般学生と帰国学生の相違に関する横断的研究(2019).青山学院大学文学部紀要.61.15-39	-
経済	准教授	川上 圭	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	1.M&A市場の理論的分析 2.市場型間接金融とマクロ経済	資源再配分の効率性という観点からM&A市場を分析する理論モデルを構築し、国際学会等で研究発表を行った。	-
法	教授	松本 英美	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	ミクスト・リーガル・システム論の総合的研究	比較法方法論としての混合法論を用いて日本法と混合法地域との比較を試み、日本法を混合法として分析しつつ新しい比較法論を構築した。総論的考察として「混合法としての日本法の考察」(柏木昇他編『日本とブラジルからみた比較法』信山社2019)、「ミクスト・リーガル・システムと法制史」(『法制史研究』69号2020)、各論的検討として国際シンポジウムComparative studies of Civil law between modern South Slavic regions and Japan: Structure, Origin and Languageをモンテネグロで開催し(英語で公刊予定)、「ボワソナードとボギシッチ」(沖野眞巳他編『比較民法学の将来像』勁草書房2020)を公表した。	-
経営	教授	大道 千穂	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	20世紀以降のイギリス小説における高齢者の表象 日本における戦後英国・英文学研究	2019年度は英国研究雑誌『あるびよん』の再読を軸に研究を進めた。戦後日本がアメリカに大きな影響を受けて発展したことはよく知られているが、『あるびよん』は日本の再建のモデルにはイギリスこそがふさわしいと考えた人々の研究誌である。この研究誌の検証は戦後の日本、イギリス、そしてイギリス文学史に新たな光をあてることを可能にしてくれるため、研究を続けている。	-
	教授	上枝 正幸	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	経営者による情報開示(ディスクロージャー)行動の総合的研究	特別研究期間(2019年度)には、20余年間に亘る研究テーマの「経営者の情報開示行動の総合的研究」につき、最近の知見を吟味しながら取り組みました。途中、日本経済会計学会のシンポジウムで講演しその内容を論文にまとめる機会をもったほか、最新の研究動向をまとめた紀要論文を執筆しました。今後、研究テーマに関する著書2冊を刊行する予定にしています。	-
	教授	吉田 猛	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	起業家認知:起業者はどのような思考活動を行うことで、起業アイデアを思いつき、それをビジネスとして実現化しているのか	単独(2020)「GEMデータから起業の決定因を析出するための予備的考察」青山経営論集54巻4号、57-83頁(なお、本研究では本学の特別研究期間制度による研究支援とともに、科学研究費の「経営視覚による間主観性の形成」の研究に関連している部分もあるため、そちらの支援も利用して論文を完成させた)	-

## 2019年度 特別研究期間制度 適用者

所属	資格	氏名	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
国政	教授	狩野 良規	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	シェイクスピア研究および文学研究	『現代を知るための文学20』(国書刊行会、2020.3)を出版しました。 「ハムレットの悩み」(『青山国際政経論集』No.103)を発表しました。大学図書館のホームページよりアクセスし、PDFで読んでいただけます。	—
理工	教授	澤邊 厚仁	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	青山学院大学	高品質ダイヤモンド基板作製に関する研究	—	—
社情	准教授	伊藤 一成	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	日本	神戸大学付属中等教育学校	情報教育、情報技術者教育へのピクトグラム適用に関する研究	人型ピクトグラムを用いたコンテンツ作成環境「ピクトグラミング」は、初学者向けプログラミング学習環境としての機能を有し、教育機関での授業や、各種研修ですでに利用されている。今回、ピクトグラミングの拡張、およびプログラムをPython言語、JavaScript言語、ブロック型で記述可能なピクトグラミングの派生環境を実装し、評価した。これらのアプリケーション、関連コンテンツ、論文等は、全て <a href="http://pictogramming.org/">http://pictogramming.org/</a> で公開し、自由にアクセスできる。	—
国マ	教授	澤田 直宏	長期 (1年)	2019.9.1 ～ 2020.8.31	日本	青山学院大学	企業の国際化に伴うオープン・イノベーションの成果と課題	研究題目は「企業の国際化に伴うオープン・イノベーションの成果と課題」である。本研究については特別研究休暇取得直前の2019年6月にアジア経営学会(Asia Academy of Management, Bali, Indonesia)にて中間結果を報告済み。なお、2020年前半の国際学会が中止・延期となったため、その後の追加調査内容については未公表。さらに、これまでの執筆者の研究成果および近年の研究動向を併せて新たに執筆した書籍『ビジネスに役立つ経営戦略論』については2020年3月に有斐閣より出版済である。	—